

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	0972500730		
法人名	特定非営利活動法人社会福祉研究会なかよし		
事業所名	グループホームねむのき		
所在地	栃木県大田原市北滝192-1 (電話) 0287-54-2247		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年8月17日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人, 非常勤	人, 常勤換算6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代 - 実費(利用した場合) ・おむつ代 - 実費(利用した場合) ・光熱水費 - 15,500円 ・日用品費 - 実費
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ(※昼食に含む) 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2		7 名	
要介護3		2 名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	85 歳	最低	57 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	磯医院、吉成歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広々とした田園地帯にあり、自然の豊かさが十分感じられる環境である。自然の光をうまく取り入れたリビングでは、入居者が思い思いの場所で居心地よさそうに過ごしておられた。ホームでは「ゆっくり、一緒に、楽しく」を運営理念としており、職員にも理解が図られており、せかしたり、無理をさせることなく、入居者が安心して自分を出せるよう心がけている。居室も生活に馴染んだ小物などが自由に持ち込まれ、家庭的な安心できる生活空間が提供されている。運営推進会議が2ヶ月に1回開催され、今後更に地域の小学校との交流を通して地域との交流を深めていこうとしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を活用して、議題にあげられ検討が図られ、改善できることから取り組みが図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員に意見を聴取して、話し合いが行われ、最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、区長、地域包括支援センター、民生委員、行政が参画しており、2ヶ月に1回開催されている。入居者及び家族は参画していない。会議内容も課題をあげ、解決を図るための討議がなされている。市とは開設以来、連携が図られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は月一度は必ず訪れており、訪問時に声かけをし、入居者の状況の報告や要望を伺っている。ホームだよりは作成していない。意見箱は設置されているが、現在、意見・苦情は寄せられていない。運営推進会議には入居者・家族は参加していない。家族会の組織化はされていない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議に区長が参画している。自治会には加入していない。地域性の影響か、地域の行事等は少なく参加する機会もない。現在、近隣の地域の方々との交流は少ないが、今後ホームの行事の際、積極的に参加の呼びかけをして、交流が図られるよう取り組みが行われている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」と誰でも分かりやすい言葉をモットーとして運営方針を表現し、理念としている。	○	今後更に、「地域での暮らし」といった視点についても理念の中に加えていくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、日々のミーティングや申し送りなどで理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元出身の力士一行の訪問の際には近隣の方にも参加を呼びかけている。現在のところ自治会には加入していない。また、お祭り等の地域行事にも現在は参加していない。入居者の知人や地域の方がホームを訪ねてお茶をのんだりすることもある。	○	今後、地元の小学生やボランティア等の招待も考えていることから、自治会への加入も含めて、地域の方々との交流をより積極的に進めていくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、できるものから改善しており、ホームの門周辺に案内表示をつける予定がある。自己評価は、管理者が実施してみて、職員に提示し、意見を出してもらった方法で実施した。	○	自己評価について、職員全体で取り組むことで職員の考えの差異などを話し合い、質の向上につなげていくといった活用を期待したい。

グループホームねむのき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員が参画して、利用状況の報告やホームで考えている事業の説明などをし、意見をいただいている。	○	ホームの目指す方向性や自己評価・外部評価を経ての課題などについて、運営推進会議の場をより積極的に活用して、更なる質の向上のために協働していくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは開設以来連携が図られ、担当者からアドバイスを受けるなどしている。また、市の介護事業者連絡協議会やケアマネジャー連絡協議会に参加している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に一度は、必ず家族が訪問されている。その際に、金銭管理や健康状態等を報告している。	○	ホームの考え方や職員の紹介、入居者の日ごりの様子を伝えるためのホームだよりの作成等の検討を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市の相談・苦情の連絡先が明記されている。意見箱を設置しているが、現在までに意見・苦情が寄せられたことはない。家族会は組織されていない。	○	運営推進会議への家族の参加や家族会の組織化の可能性を探るなど、意見等がしやすい仕組みづくりの検討にも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は事業所開設当初にあった以外はない。入居者への影響を最小限に抑える努力をしている。		

グループホームねむのき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の勉強会を月1回定期的実施し、外部の研修も職員が交代で参加できるようにしている。外部研修を受講した際には、報告書をもとに他の職員への伝達をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県の事業者の組織に加入しており、サービスの質の向上を図るために積極的に参加して情報収集を行っている。また、市の介護サービス事業者連絡協議会に参加して意見交換等を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネジャーと市役所から入居の要望・相談があったときは、管理者が出向いて対応している。家族及び本人が見学や体験利用をして、本人が安心、納得して利用できるように本人の意思を尊重して支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と日常生活を営む中で、入居者から学ぶことが様々な場面で数多くあり、入居者は人生の先輩である、と職員間の考え方が共有されていることがうかがえた。		

グループホームねむのき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者とのかかわりの中で、声をかけて入居者一人ひとりの求めていることを把握するよう努めている。「今頃、あじさいがきれいだろうな」という入居者の言葉から、外出をして皆が喜ぶということもあった。	○	希望や意向の表出の困難な入居者には、家族等の協力を得ながら把握していくことを期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族とも相談し、意見・要望を踏まえ、職員の気づきも反映させながら、本人本位の介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、6ヶ月から1年を目安に行っている。状態が変化した場合は随時見直し、家族への説明を行い同意書をいただいている。	○	状態が安定しているような入居者の場合でも、よりこまめに、新鮮な目で本人・家族の今の意向や状況を確認すると共に、職員の最新の気づきやケアのアイデアを集め、更に実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための計画の見直しに取り組んでいくことに期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の要望に応じて働きかけを行っている。また、現在、医療連携体制加算の検討を進めている。ホームの行事として、地域のボランティアによる「踊り」を開催する際に家族等に案内のパンフレットを作成・配布した。	○	現在、医療連携体制加算の検討をしている。今後更に事業所の機能を充実させていくためにも実現に向けての取り組みに期待したい。

グループホームねむのき


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認して対応している。その他に、ホームとして地元の医師の週1回の往診や緊急時の夜中の受診などの体制を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は対応していないが、ホームとしての方針を管理者・職員で話し合いを行い検討している。	○	医療連携体制加算も検討していることから、入居者・家族とも話し合いをしながら、早期のホームの方針の決定や必要な資源等の確保などの体制づくりをしていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの個人情報などは、同意書に基づいて個人情報保護に配慮して対応している。また、訪問時の職員の入居者への対応を見ても、入居者の誇りやプライバシーを大切にしている様子がうかがえた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めていない。訪問日にもテレビを見たり、入居者同士で談笑したりと一人ひとりがそれぞれのペースで思い思いに過ごされていた。		

グループホームねむのき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	J Aの食材の宅配を利用しており、その献立表を参考に、入居者の好みに合わせて調理している。配膳や後片付け等、入居者と職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は、週3日（火・木・土）の午後3時前後に入浴を実施している。	○	入居者の習慣や希望などを探りながら、柔軟に入浴できるような支援方法の検討を期待したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の草むしりや畑での野菜づくり、ホーム内では大正琴やトランプなど、入居者と相談しながら対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回近所のスーパーに買い物に出掛けている。外出をしない方はホームの周辺を散歩するなどしている。その他に、買い物、外食など入居者の希望に応じて相談しながら対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。ホームの敷地内は自由に行動できる。職員のさりげない見守りで入居者の自由な生活を支えている。		

グループホームねむのき

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力を得ながら避難訓練が実施されている。地域の協力体制づくりについては、特に行っていない。	○	管理者は年2回の訓練の必要性を感じていることから、実施に向けた検討に期待したい。また、いざというときの地域での協力体制などについても検討していくことを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	J Aの食材の宅配を利用しており、おおまかな栄養バランスを把握している。水分摂取についても配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間については、浴室、トイレ、キッチン等の設備や調度品はいずれも家庭的なものを用い、ホーム内の飾りつけなどは入居者と相談しながら行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、タンスが備え付けられている。その他のものは自由に持ち込むことができ、使い慣れたテーブルや仏壇などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるような配慮がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。